

PSLX システム開発者向け実践セミナー概要

今回の APSOM 実践セミナーでは、APSOM / PSLX の提唱する分散アーキテクチャを実装する一環として、複数のシステム間で PSLX XML メッセージスキーマを利用して、相互連携する I/F 部分を中心として、実装の演習を行います。

具体的には、XML データバインディングにより PSLX XML メッセージを、プログラム中から容易に扱う方法について学び、またシステム連携技術としてメッセージキューによる通信の扱い方を学びます。

ついで、XML データバインディングとメッセージキューを利用して、PSLX の仕様の一部を実装したクライアントおよびサーバを作成し、相互に運用可能なことを確認します。さいごに、ESB を利用して、他システムと連携する方法について学習します。

実装言語は、Java を用います。一部、PSLX クライアントの作成に C# も利用します。

演習内容

- XML データバインディング(Sun JAXB を利用)
- Message Queue によるシステム連携(Apache ActiveMQ を利用)
- PSLX クライアントの作成
- PSLX サーバの作成
- サーバとクライアントの連携
- 他システムとの連携 (Mule ESB の利用)

事前準備

- 以下のスペックを満たすノート PC をご持参ください。
 - Windows XP / Vista
 - Pentium 4 2GHz 以上 / 搭載メモリ 512MB (できれば 1GB) 以上
 - 2GB 程度の HDD の空き容量
 - 無線 LAN もしくは Ethernet ポート
 - インストールを行うため、管理者権限が必要です。
- 可能であれば、以下のソフトウェアをインストールしておいてください(当日インストールも可能です)。
 - Sun JDK 5.0 Update 12
 - Eclipse 3.2.2 (3.2.1 言語パック)
 - Visual C# Express Edition 2005 (SQL Server Express Edition 2005 を含む)